笑顔あふれる 町づくり座談会

8月から10月にかけ、町内13会場で町づくり座談会を開催しました。

今年は、自治区単位を基本として、町民の皆さんから要望のあったテーマに沿って説明をしました。主な意見と町の回答を紹介します。

〈Q質問　A回答〉

防　災

Q避難所の鍵の開閉や運営は誰がするのか。

A各地区の集会所は地区の代表者ですが、公共施設の中には、明確でない場所もあります。避難所の具体的な運営方法は、今後示します。

Q防災士の役割、位置づけ、活用は。

A自治会や組で防災組織を作る際のリーダー役となっていただきたいと考えています。

Q消防団員が減少し、機器の管理がしっかりできるのか不安。

A維持管理の負担が大きくなっていることは認識しています。

整備後20年を越える古い車輌は、順次更新しており、更新に併せて、消防団とも協議して団の再編も検討したいと考えています。

Q防災行政無線が、特に屋外で聞こえにくいが対策は。

A今年度、町全域に防災行政無線を整備しました。屋外スピーカーは、頓原12カ所、赤来11カ所の全23カ所です。音声が聞こえにくい等の意見が複数あり、調査して、改善できるものは早急に対応したいと考えています。

定　住

QUターン者、地元や近隣で就職した人への支援制度はないか。

A以前はIターン者向けの制度が多かったですが、近年はUターン者への支援も進めています。町外への通勤助成、定住促進賃貸住宅など、Uターン者でも利用できるよう支援の幅を広げています。

地域運営

Q小さな拠点の範囲は、公民館単位とのことだが、範囲が広く実現できるか疑問だ。

A小さな拠点では、各集落が個々ではできないことを互いに補って、自主的な地域づくりを進めることを目指しています。各集落で解決できないことは自治区で、自治区でできないことは小さな拠点でという考え方です。

地域の将来の理想の姿を、皆さんと一緒に考えていきます。

施　設

Q公共施設の今後の維持管理の方針は。

A公共施設の維持管理には、多額の費用がかかっています。公共施設等総合管理計画に基づいて、施設の今後のあり方を検討中です。

Q旧頓原庁舎の跡地利用の考え方は。周辺の遊休施設も含めた計画を示してほしい。

A旧庁舎跡地は、駐車場やイベント広場として活用したいとの要望をお聞きしています。全て撤去し整地して、広場的な活用になると考えています。行政の責任として、頓原地区のまちづくりの方向性を示します。

公共交通

Qデマンドバスの利用者が少ないと聞く。利用促進への考えは。

A利用方法が分かりにくいとの声があり、利用方法を解説した番組をケーブルテレビで放映するなど、PRを進めています。

Q高齢のため免許返納された人への、経済的な支援はないか。

A免許返納時に、生活路線バスやデマンドバスなどの回数券を発行しています。タクシー利用券や継続的な支援は、今後検討します。

創　業

Q定住やビジネス、創業でもネット環境が重要。事務所経費など安い田舎であれば創業しやすいのでは。

Aできる限り早期に、光回線を整備したいと考えています。

産　業

Q農業の担い手不足にどう対応していくのか。

A今年7月に、農業担い手支援センターを立ち上げました。5年後、10年後の農業を維持していくために、担い手づくりを進めます。

また、頓原集落営農組織連絡協議会、赤来担い手連絡協議会などの意見を聞きながら、農業法人組織の広域連携を進めたいと考えています。

Q農業振興計画の推進には、生産現場の声を聞く必要がある。役場職員は現場に出掛けて、町民の声を聞いて仕事を進めてほしい。

A農業振興計画は、農林業振興協議会という組織で、農産、特産、畜産、林業それぞれの部会の意見を聞きながら策定しています。今後は、現場の声を聞きながら推進し、必要に応じて計画の見直しも行います。

Q国の農業政策の見直しに関する対策は。

A生産者の皆さんにも大きな不安が広がっています。町としては、県知事に対して、農業振興への継続した支援を要望し、現場の声、地方の声を、国へも伝えるようお願いしました。また、町独自の農業振興、園芸振興を、町全体で進めることが大切だと考えます。

Q飯南米、島根米を全国に売り出す知恵と工夫は。

A飯南町のエコ米は「安全でうまい」ということを、広くPRしなければなりません。県へは、県全体としての米の産地化を進めるよう要望しています。

Q下来島地区の畜産事業による悪臭に対する指導などの対策は。保健所も共に行政指導してもらいたい。

A町、事業者で協議して必要な指導を行います。

教　育

Q高校の生徒確保の取り組みは効果が上がっているが、小中学校の児童・生徒数の減少は心配だ。

A集団での学習やクラブ活動には、支障が起きている部分もあります。しかし、学習や一人ひとりに目を向けるという点では、この規模は良い面もあり、今の学校数は維持する考えです。子どもたちが育つ環境づくり、最善な方法を考えなければなりません。

高校では、オープンキャンパスで県外生徒の親と一緒に食事をする機会を設けたり、上赤名ではホストファミリーを地域ぐるみで取り組んでいる例もあり、生徒確保につながると期待しているところです。

福　祉

Q高齢化、独居が進んでいる。集合住宅やグループホームを整備する考えはあるか。

A現在住む地域の周辺で暮らしていける対策が必要です。町から出なくても、最期まで安心して自分らしく生活できるようにしたいと考えています。来年度に向けて継続して検討します。

Q福祉現場の経営の厳しさ、人材不足に対する対策は。

A施設を大きな枠組みで一つにすることで、人材不足をカバーできないか、関係団体の皆さんと協議しています。

Q長生き体操への参加はどのような状況か。

A現在、町内36箇所約420人の皆さんが参加しておられます。

医　療

Q飯南病院で人工透析ができる体制は整えられないか。

A設備やスタッフ体制のこともあり、現在は考えていませんが、人工透析が必要な方には通院支援を行っています。永澤副院長が糖尿病の専門医ですので、予防の面で、病院としての役割を果たしていきたいと考えています。

Q近年、飯南病院の雰囲気が大きく変わり喜んでいる。

A町民の皆さんと、一緒になって病院を良くしていきたいと考えています。地域、町民の皆さんに身近な病院として頑張っていきますので、これからもよろしくお願いします。

Q町内で子どもを産める体制が整えられないか。

A病院として今進めているのは、総合医という幅広く診療ができる医師が、地域の大部分の方の病気を診る体制を作っていくことです。高度な医療機関での治療が必要な場合は、三次や出雲の医療機関と連携して対応する方針で進めています。今は出産の対応をする計画はありませんが、心に留めておき、将来可能であれば、検討したいと思います。

町　政

Q若い女性や子育て中の人は、この座談会の時間帯では参加しにくい。

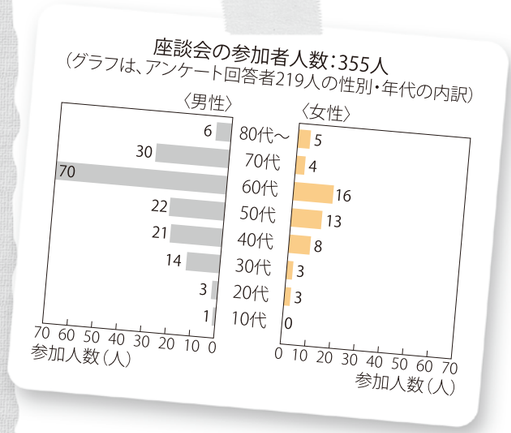
A町としても若者や女性の意見はぜひ聴きたい。開催時間や内容、手法は今後見直します。

Qよい取り組みや制度があるのに、町民に伝わっていない。

A町には、素晴らしいところや美味しいものがたくさんあります。今後、広報誌やホームページを通じて情報発信を強化します。

Q役場職員は、町民、現場の意見や県との連携を密にして業務を進めてほしい。

A職員が、町の皆さんに満足していただける仕事をしていくためには、広い視点で話ができる職員の養成が必要だと考えています。

Q健全な財政運営のため、実質公債費比率を下げることは必要だが、必要な施策は行うべき。

A借金を減らすのが目的ではないので、健全な財政の基に町民の皆さんの声に応えていきたい。